

生物資源科学部だより

編集・発行 / 島根大学 生物資源科学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 URL: <https://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL: (0852) 32-6493 FAX: (0852) 32-6499

Vol.33

発行 2021年1月



学部長より保護者の皆様へのご挨拶

生物資源科学部長 井藤 和人

12月現在、「第3波」とも言われる新型コロナウイルスの感染拡大が続き、未だに終息の目途もたない状況で、保護者の皆様におかれましてはご心配のことと存じます。9月の感染者数の減少傾向を受けて、後期授業からは、対面での実施が必要な実験、実習、演習科目については対面により実施することとし、また、入学後からオンライン授業を続けてきた1年生については、各学科で学生全員が受講する学科共通科目を対面で実施することにより、学生間や学生・教員間の交流の機会を促すようにしています。これらの対面授業では、各教室の受講生数が、教室定員の半分程度までとして密を避けるとともに、定期的な換気や消毒により、感染防止に努めています。それ以外の講義科目は基本的にオンライン授業を継続し、対面で実施している科目についても感染状況に応じてオンライン授業に切り替えられるよう準備しています。幸い、島根県での感染者数は全国的には少ない状況ですが、残念ながら島根大学でも出雲キャンパスで学生が感染したことから、再度、学生を含む全構成員に対して感染防止の徹底を周知したところです。



現在、今年の経験等を踏まえ、学位授与式や入学式、来年度の学年歴や授業等をどうするのかについて、検討をしているところです。状況を予測することが困難なことから、簡単ではありませんが、教育活動と感染予防を両立して、すべての学生が新学期をスムーズに始められるよう考えています。

たいへんな状況下ではありますが、お預かりしていますお子様が安心して大学生生活を送れるよう教職員一同で努めてまいりますので、皆様には一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

大学教育センターキャリア担当から保護者の皆様へ

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、大学生の就職活動も変化しました。採用選考やインターンシップがオンライン化されたことを受け、キャリア担当でも「オンライン就活の進め方」や「オンラインでのビジネスマナー」など、新しい就活様式に対応したガイダンスを実施しています。ガイダンス自体もオンライン（録画付き）で実施し、多忙な学生たちのニーズに対応しています。

また、先行きが見通しにくい環境下での進路選択に不安を抱える学生もいます。キャリア担当では、学生一人ひとりの気持ちに寄り添う「個別進路相談」にも力を入れており、現在は対面とオンラインの両方で実施しています。

自分が納得できる進路に進むためには、早くから将来のことを考えて情報収集しておく必要があります。例えば、長期休業等の機会でお子様と会われる際には、お子様の将来について会話をし、迷っている様子であれば「大学で進路相談してみたら?」とお声掛けいただけると幸いです。



個別進路相談の様子

心身の健康相談

オンライン授業により友人等と会う機会が減り、生活リズムの乱れ、感染の不安などで心身のバランスが崩れがちになっている学生がみられます。保健管理センター・学生相談室では、専門スタッフ（医師、保健師、臨床心理士）がからだの健康相談だけでなく、食生活相談、こころの健康のサポートも行っています。学生さん本人はもちろん保護者の方からの相談も受け付けています。お聴きしたお話を許可なく外部に漏らすことはありませんので、ご心配なことがありましたら、安心してご相談ください。

●保健管理センター・学生相談室 Tel(0852)32-6568
Mail health@soc.shimane-u.ac.jp



学科の様子

生命科学科、生物科学科、生命工学科

生命科学科では一部の授業において、対面授業が再開されました。検温、3密回避、マスク着用等、コロナ感染予防対策を十分取りながら実施しています。1年次科目の生命科学基礎セミナーⅡでは、4グループに分かれて4つの教育コースの研究室をローテーションで訪問し、各専門分野の研究内容について理解を深めています。これはコロナ対応で新たに開始された形式です。また、学生間の交流も徐々に広がりつつあるようで、指導教員も定期的なオンライン面談で履修や生活のアドバイスをしながらサポートしています。2年生は前期のオンライン授業やオンデマンド実習から、後期は対面式授業が始まり、実験や実習を通して生命科学の面白さを体感しています。感染防止対策として、授業1回あたりの受講者を制限し、少人数グループによる受講や2つの実習室をオンラインで中継する対面と遠隔のハイブリッド方式など工夫を凝らして実施しています。3年生は後期から研究室に配属され、実験や演習を通して専門分野についてより深く学んでいます。4年生は各教員の指導のもとに研究の目標を達成できるように日々卒論研究に取り組んでいます。



上段:生命科学基礎セミナーⅡの研究室訪問で説明を受ける様子
中段:隠岐臨海実験所(左)と建物屋上(右)で野外採集の様子
下段:お互いの距離をとって原生動物を顕微鏡観察の様子

農林生産学科

農林生産学科においては、感染リスク軽減と教育効果や学生間コミュニケーション促進のバランスを考え、森林学概論、食と農の経済学概論、園芸生産学概論、資源作物・畜産学概論など、一部の講義で大講義室を利用した対面式授業を再開しました。また、2年生の農場専門実習Ⅱをはじめとした実習科目においても、屋外や換気の良い場所で実施されることから対面式をとっています。後期になり涼しさを感じられる季節になっても、よく晴れた日などはマスクをしながらの作業が息苦しくもあり、例年にも増して作業中の体調管理に注意して実習を行っています。研究室に所属する3・4年生も特別研究や卒業研究への取り組みが本格化しています。こうした学習の機会にあたっては引き続き徹底した感染症対策が行われていますが、実際に大学に来て同級生たちと交流する機会も増えてきたことで例年のような学習環境や雰囲気になんげ戻ってきているようです。



ダイコンとカブの間引き作業(専門実習Ⅱ)

環境共生科学科、地域環境科学科

環境共生科学科では、新型コロナウイルスの感染対策の規制緩和にあわせながら、夏休みを利用するなどして、実験・実習の一部を中心に前期の授業でも可能なものは対面へと移行させられるように工夫してきました。これが奏効して、各学年で対面授業とオンライン授業がある程度調和しながら後期のスタートを切れているのではないかと感じています。

1年生は入門系の必修科目のひとつで野外実習を行い、また別の授業では万全の感染対策をした上で、受講生全員が同じ講義室に入って学科教員の研究紹介を対面で聴講できる環境を整えました。入学当初のガイダンスも二部屋に分かれての実施でしたので、新入生が学科の同級生と一堂に会するのは実質的に初めての機会となっています。2年生は4月に分かれたそれぞれの教育コースの内容に特化した英語の授業や、専門科目の実験・実習を対面で実施しています。3年生と4年生は、前期中に始動できなかった卒論研究が夏前ごろから本格的に対面で再開可能となり、あちこちの研究室で活気が戻ってきたところです。



感染対策を取って実施している実験授業

後援会への入会をお待ちしています!

生物資源科学部後援会は、「生物資源科学部の強化発展を期し、その教育事業を後援することを目的」として、保護者の皆様が会員となり、学生の進学、就職支援ならびに学生生活充実のための様々な学生生活活動への支援をいただいています。未入会の方は、是非入会いただきますようお願いします。

- 学部生 入会金及び会費30,000円
- 3年次編入学生 入会金及び会費15,000円